

EARTH COMPANY

www.earthcompany.info

Earth Companyは次世代につなぐ未来のために
人と社会と自然が共繁栄しながら発展する
リジェネラティブなあり方を追求します。

一般社団法人Earth Company
東京都港区南青山2-15-5 FARO1F Tel 03-6403-7594

PT Jalan 278
Banjar Mas, Sayan, Ubud, Gianyar, Bali, Indonesia

Email contact@earthcompany.info

 www.facebook.com/EarthCompanyJP/

 www.instagram.com/earthcompany.jp/

※Earth Companyは日本を拠点とする一般社団法人Earth Companyと、インドネシアで活動するPT Jalan 278の2つの独立した法人の総称です。
2026年7月発行 編集：一般社団法人Earth Company デザイン：野村真美



ANNUAL REPORT 2025

Earth Company 2025年度活動報告

EARTH COMPANY

代表メッセージ	04
Earth CompanyのTheory of Change	06
事業概要	08
インパクトヒーロー支援事業	10
インパクトアカデミー研修事業	18
エシカルホテル事業	20
2025年の活動報告	22
インパクトヒーロー支援事業	24
インパクトアカデミー研修事業	32
エシカルホテル事業	38
講演・登壇 メディア掲載	42
一般社団法人Earth Company 2025年財務報告	43
一緒にできること	44
Our Team 〜Earth Companyチーム紹介	46

表紙について

表紙には、2025年のEarth Companyの歩みを込めました。11年目を迎えた2025年は、積み重ねた10年の実りを結んだ年。それを花で表しました。大型企業研修の受け入れや財政基盤強化のパートナーシップも進んだことは左側のビル群に、船に乗っているのは支援したインパクトヒーローたちです。そして、さなぎから蝶へ飛び立つのは成長する次世代リーダーたちの姿です。また、チームも成長し「スズキクエスト」でグッドデザイン賞を受賞したことや、ソーシャルグッド・カタバルト優勝も表現しています。

10年の節目で開いた扉の向こうへ、更なる高みを目指して。想いと活動を込めたレポート、ぜひご覧ください！

MESSAGE FROM OUR CEO

代表メッセージ

「自分の内面と向き合うこと」が、 すべての始まり



〃

To become a more effective leader,

the thing that was important to know was myself.

My weaknesses, my proclivities, my biases

〃

「真のリーダーになるために必要なのは、自分自身を知ることだ。
弱さも、気質も、自分が持つ偏見も、そのすべてと向き合いながら」
バラク・オバマ（第44代アメリカ合衆国大統領）

Earth Company 代表・CEO

濱川 明日香

2025年、Earth Companyは設立11年目を迎えました。創業期の5年、基盤構築に尽力した次の5年を経て、私たちはいま、明確に「第2ステージ」に突入したことを実感しています。バリ島と日本のチームは34名へと拡大し、支えてきたインパクトヒーローは50名を超えました。2025年、インパクトアカデミーでは69本の研修を実施し、2年間でサントリーホールディングス株式会社の新入社員543名に届けたグローバル研修もインパクトを残して完遂することができました。さらに、企業がリジェネラティブな事業を探索するワークショップ「（通称）スズキクエスト」はグッドデザイン賞を受賞。ICCソーシャル・グッドカタパルトでの優勝や、私個人のオバマ財団リーダー選出など、国内外での評価が広がってきたことは、嬉しい発展です。同時に、10年間のトライ&エラーを繰り返してきた結果、辿り着いた本質的な気づきもありました。

それは、社会に変革(outer transformation)をもたらすためには、個人の内なる変容(inner transformation)がいかにより不可欠であるか、ということです。

インパクトアカデミーは、社会が課題を生み出し続ける構造そのものを変えたいという想いから始まりました。この10年で15,000人以上に研修を届ける中で、「変革のノウハウ」を教えることより、「変革の必要性を痛いほど心で感じること」の方が遥かに行動の持続性と実現性を高めることは明らかでした。だからこそ私たちは、「心に火をつける」ことを重視し、固定概念を覆し、心を開いて世界を知り、価値観や人生観が転換するほどのプログラムへと進化してきました。

インパクトヒーロー支援においても、変革を促すカタリストは同じでした。彼らの多くは、自らが向き合う社会課題の当事者であり、深い傷やトラウマを抱えながら活動しています。資金調達や戦略支援だけでは、そのポテンシャルを最大

化できないことを、私たちはずっと目の当たりにしてきました。社会起業家の道は孤独で険しいものです。課題を解決すればするほど資金難に陥るそもそものNGOの構造は、大きな負荷を与えます。内面の平和を犠牲にしたままでは、持続的なインパクトは生まれないのです。彼らの心の支え、ウェルビーイングマネジメント、バーンアウトを防ぐ組織運営も、活動そのものと同じくらい重要なのです。

そしてそれは、私自身にも突きつけられたテーマでした。2025年は「いつ心臓発作が起きてもおかしくない」という警告から始まり、2月には実際に発作が起きました。その後は度重なる失神、療養とリカバリー、そして自分の思考やマインドシフトに向き合う一年となりました。壮絶な回復の道のりでしたが、結果として、年初には25%まで低下していた心機能が、年末には回復するまでになりました。今思えば、「自分の内面と向き合うこと」なしに、真の回復も効果的なリーダーシップもあり得ないということです。心と体は切り離せない存在であり、内面の在り方がすべての土台です。カール・ユングは「人生は40歳から始まる」と言いましたが、まさに私も「Re-birth」です。

2025年は、私自身にとってもEarth Companyにとっても、「脱皮」の年でした。これまでの在り方を手放し、内に秘めた力を解放し、新たなステージへと移行する転換点です。

そして丙午の年2026年。私たちは「ワイルドホース」として、既存の枠を超え、未知の領域へと踏み出しています！インパクトヒーロー支援の活動を支える持続的な資金循環の確立という挑戦は、みんなの頑張りにより確実に進展してきたものの、未だに容易くはありません。今年は新たな戦略を描き直し、早速多くの種を蒔いていっています。次のステージへの挑戦に、引き続きご支援とご期待をいただければ幸いです。皆さま、応援よろしく申し上げます！

Earth Companyの Theory of Changeと3つの事業

リジェネラティブな未来は、 一人ひとりの 内側から始まる

気候変動や社会的分断が加速する今、システムの外側だけを変えようとするアプローチには限界があります。Earth Companyは、真の変革は「個人の内側から」始まると考えます。一人ひとりのインナートランスフォーメーション（内なる変容）が個々の意識と行動を変え、周囲を動かし、組織を変え、社会へと波及し、やがて地球全体のウェルビーイングへとつながっていく。

その確信のもと、インパクトヒーロー支援事業では、ヒーローたちの内なる変容と、社会変革に必要なナレッジとリソースを支える物心両面の支援によりインパクトを拡大し、研修事業では個人の変容から組織、社会の変容を促す学びの体験を提供、そしてMana Earthly Paradiseではその滞在があり方を問い直す場となることを目指しています。

「人と社会と自然が共繁栄するリジェネラティブな未来」は、個人の内側から始まる。だからこそ、それを全力で支援する。それが私たちEarth Companyアプローチです。

はじめりは 個人の変容から

Personal Wellbeing

リジェネラティブな未来は、制度や仕組みを変える前に、まず一人ひとりの内側が変わることから始まります。今の世界の現状や社会課題や環境問題との自分のつながりを認識した時、「自分が何を大切にし、何の目的のためにどうありたいのか」という問いと向き合うことで、物事の見方が変わり、行動が変わります。その静かな変容こそが、すべての変革の出発点です。

そして周囲が、 組織が変わり始める

Organizational Wellbeing

内側から変わった人は、組織や業務のあり方にも少しずつ変化をもたらします。周囲とのコミュニケーションが変わり、仕事への考え方や発想が変わり、それに影響されて場の空気も変わり、一緒に働く仲間の意識も変わっていく。一人の変容は静かに、しかし確実に周囲へと広がっていきます。

その変化が 社会を変える

Societal Wellbeing

社会課題解決と変革に関する世界的メディアStanford Social Innovation Reviewでも昨今重要視される通り、変容した個人が組織を変え、その組織が社会へと影響を与えていきます。

そして、地球の未来も 変わっていく

Planetary Wellbeing

個人から始まる小さな変化が様々な場所で生まれ、リジェネラティブな視点を持つ人が増えれば、コミュニティが変わり、やがて地球全体のウェルビーイングとなり、未来を変えていきます。

OUR PROGRAMS

事業概要

人と社会と自然が共繁栄する、リジェネラティブな未来をつくる

Earth Companyの3つの事業



インパクトヒーロー
支援事業 → p10



インパクトアカデミー
研修事業 → p18



Mana Earthly
Paradise → p20

IMPACT HEROES

インパクトヒーロー支援事業

類稀な変革力を持つ
チェンジメーカーたちと共に
リジェネラティブな
未来を創る

Earth Companyは、アジア太平洋地域で社会課題に取り組む傑出したチェンジメーカーたちのなかから、毎年厳正な審査を経て、最大10名を選出し、彼ら・彼女らのリーダーシップ育成と活動の成長をサポートする1年間の支援プログラムを提供しています。

そして、この最大10名のチェンジメーカーたちのなかから、並外れた変革力を持つ1名を「インパクトヒーロー・オブ・ザ・イヤー」として選出し、そのインパクトを最大化できるよう、課題やニーズに沿った伴走支援を、合計3年間にわたり提供します。2030年までに100人のチェンジメーカーたちに支援を届け、アジア太平洋のリジェネラティブな未来づくりを加速します。



IMPACT HERO OF THE YEAR

これまで支援したインパクトヒーローたち

①国 ②運営団体 ③活動内容 ④寄付総額



少女兵・亡命を経て東ティモールに
真の豊かさをもたらすLGBTQ大統領補佐官

IMPACT HERO 2015
ベラ・ガルヨス

- ①東ティモール
- ②ルブロラ・グリーンヴィレッジ(LGV)
- ③環境教育に特化した学校・宿泊施設の
運営、性的マイノリティの若者支援
- ④1,765万円

軍の独裁が続くミャンマーに平和を！
亡命先から母国の弱者を守る人権活動家

IMPACT HERO 2019
ウェイウェイ・ヌー

- ①ミャンマー
- ②Women's Peace Network
- ③少数民族を含む包括的な
民主主義の実現に向けたアドボカシー
- ④1,322万円

人口の6割が清潔なトイレを持たない
モンゴルの衛生を変えるトイレ革命家

IMPACT HERO 2023
オウンゲレル・ツェデブダンバ

- ①モンゴル
- ②Local Solutions
- ③安全で衛生的なトイレの普及と
教育・啓発活動
- ④1,478万円

15000人のお産を介助!「貧困」を
命を諦める理由にさせない愛の助産師

IMPACT HERO 2016
ロビン・リム

- ①インドネシア・フィリピン
- ②ブミセハット国際助産院
- ③24時間365日無料で診療を受けられる
助産院の運営
- ④4,611万円

竹で木材需要を置き換え森林・生態系
崩壊から人類を救う竹革新のバイオニア

IMPACT HERO 2021
アリーフ・ラビック

- ①インドネシア
- ②Bamboo Village Trust
- ③竹を活用したアグロフォレストリーによる
再生経済の実現
- ④30万円

ネパールに教育革命を！学校がない農村
地区に85の学校を設立&運営する変革者

IMPACT HERO 2024
スリヤ・カルキ

- ①ネパール
- ②UWS Nepal
- ③地域コミュニティとの連携による
小学校建設と運営
- ④支援中

気候変動で世界で最初に沈む!?
マーシャル諸島の未来を切り拓く気候変動活動家

IMPACT HERO 2017
キャシー・ジェットニル・キジナー

- ①マーシャル諸島
- ②NGO Jo-Jikum
- ③アドボカシー・次世代リーダーを育成する
ユースセンターの運営
- ④1,180万円

工場から廃棄される未使用石鹸を再生し、
難民に命を救う石鹸を届ける社会起業家

IMPACT HERO 2022
サミール・ラカーニ

- ①カンボジア・ネパール他
- ②Eco-Soap Bank
- ③工場の廃棄石鹸をリサイクルし
難民キャンプへ届ける
- ④2,177万円

元国民的テレビレポーターで教育崩壊に
直面するアフガニスタンの子どもの救世主

IMPACT HERO 2025
フレシュタ・カリム

- ①アフガニスタン
- ②Freshta Karim Foundation
(旧: Charmaghz)
- ③女子向けのオンライン教育プログラムの提供
- ④支援中

HEROES COLLECTIVE

これまで支援したヒーローたち



教育

- ① アートや体験学習で自然への共感を育てる
インドの環境教育者
- ② バリ島のストリートチルドレンに家・食・教育を届ける活動家
- ③ エベレストの山村から教育格差をなくす次世代リーダー
- ④ ICT教育で農村部から大学卒業生を輩出する革新者
- ⑤ アフガンの「秘密学校」で女子教育を守る若き部族リーダー
- ⑥ 195か国で人生の智慧を記録し教育を提供する研究者
- ⑦ 教育機会の限られたアフガンの子どもたちを救う教育者
- ⑧ インドの公立学校に革新的教育を導入する教育改革者

健康・衛生

- ① ラオスで1万人の命を救った無償の民間レスキュー隊員
- ② 自然に還る生理ナプキンで生理の貧困解決を目指す起業家
- ③ 伝統食品テンペで健康と農業を変革するテンペマン
- ④ インド貧困層へ革新的な健康保険を届ける社会起業家
- ⑤ 5週間で飢餓を解決する元NY金融バリキャリNGOリーダー
- ⑥ インドネシアでHIV陽性者に情報とサポートを届ける活動家
- ⑦ 緊急輸血不足による死亡ゼロを目指す18歳起業家
- ⑧ 清潔な水へのアクセスを誰にも届ける社会起業家

環境保全・気候変動

- ① 世界のレストランの水の無駄使いをなくすウォーターガール
- ② スリランカで電動トゥクトゥクによる
持続可能な交通の先駆者
- ③ アップサイクルでゼロウェストを牽引するZ世代エコリーダー
- ④ 投獄後も闘い続ける勇敢な環境活動家
- ⑤ 海藻で生分解性プラスチックを開発した女性科学者
- ⑥ 全河川の海ごみゼロに挑むバリ島のチャレンジャー
- ⑦ 9歳で活動家となった気候変動教育のパワフル女子

- ① 沈みつつある島の伝統文化を保存し
クラウド化を目指す活動家
- ② 農業と観光のリジェネラティブモデルを示すバリのリーダー
- ③ 東ティモールの自然を再生し
パーマカルチャーを広める活動家
- ④ 先住民族をリジェネラティブ農業で救う起業家
- ⑤ エシカルファッションで森林伐採の島を救う
ローカルヒーロー
- ⑥ 命懸けで自然を守るフィリピンの環境弁護士

人権・平和・社会的包摂

- ① 漁船から5000人の奴隷を救うノーベル賞ノミネート活動家
- ② デジタルIDで国籍のない難民を救うロヒンギャ活動家
- ③ 障がいを持つ人への雇用創出に挑むスーパー起業家
- ④ 金鉱ビジネスの人権侵害にNOを突きつけるアクティビスト
- ⑤ 平和と正義を追求するインドネシアの人権活動家
- ⑥ 先住民族・女性・LGBTIQ+の権利向上を目指す活動家
- ⑦ すべての人が生きやすい社会を作る
ネパールの法律活動家

ジェンダー平等

- ① 農村部の伝統織物をエシカルブランドに変えるリーダー
- ② 人力車アートをクラフトにし女性に雇用を生む起業家
- ③ 女性のオーガニック農業で農家をエンパワーする起業家
- ④ 笑いの力で女性のトラウマに挑むイスラム女性コメディアン
- ⑤ 生計向上・地域経済
- ⑥ 小規模農家を海外市場とつなぐ定年後のチャレンジャー
- ⑦ サステナブルツーリズムで村々を貧困から救う若きホープ
- ⑧ 社会課題と若手リーダーをマッチングする
元難民イノベーター

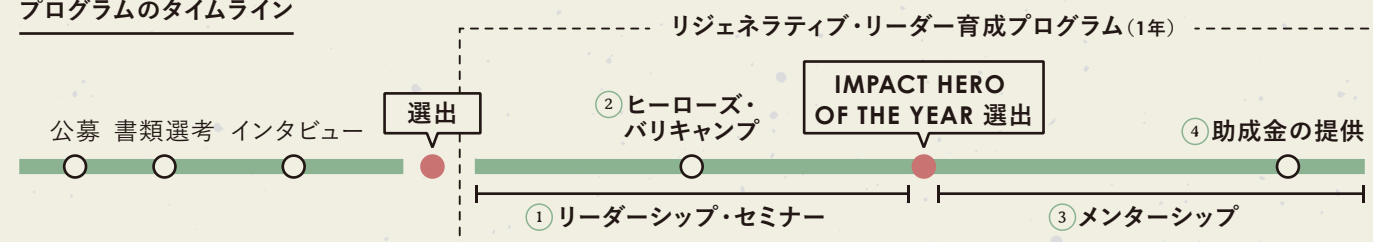
OUR SUPPORT TO HEROES

支援内容

Lead-to-Regenerate Acceleration Program リジェネラティブ・リーダー育成プログラム

社会・環境課題に挑むリーダーたちが、1年間の支援プログラムを通じて、リジェネレーションの視点と組織運営・資金調達力を育み、リジェネラティブな未来を切り拓いていくためのプログラムです。また、孤独になりやすいリーダー同士をつなぎ、支え合えるコミュニティを育てています。

プログラムのタイムライン



プログラムの4つの柱



リーダーシップ・セミナー
リジェネレーションや組織運営、広報、資金調達を学ぶ月1回のオンラインセミナー。



ヒーローズ・バリキャンプ
バリ島ウブドで約5日間、イベントやメンタリングを通じて学び合う合宿型プログラム。



メンターシップ
各ヒーローの支援ニーズに応じ、専門家によるメンタリングを計3回提供。



助成金の支給
1人3,000米ドルの助成金を支給し、活動推進や財政基盤の強化を支援。

Support to IMPACT HERO インパクトヒーローへの伴走支援

毎年6月に「インパクトヒーロー・オブ・ザ・イヤー」を1名選出。インパクトヒーローの可能性を最大限に引き出すために、直面している課題や状況に合わせたオーダーメイドの支援を提供します。

5つの支援分野



ファンドレイジング
インパクトヒーローが持続的にインパクトを生み出させるプロジェクトに対して、1,000～3,000万円の寄付を提供。
事例 ブミセハット国際助産院 3つのクリニック建設



マーケティング支援
WEBサイト・広報素材の制作や、国内外での発信・メディア露出を支援。
事例 東ティモールでの活動紹介ビデオ、マーシャル諸島の団体のリーフレットの作成



経営コンサルティング
ビジョン・ミッションの策定、中長期の経営計画や財務計画の立案をサポート。
事例 モンゴルで安全で清潔なトイレの普及のためのロードマップ策定



事業開発
持続的な収益基盤づくりに向けた事業開発を伴走支援。
事例 日本の学校との連携による、ネパールでの学校建設プロジェクトと現地訪問ツアーの企画



リーダーシップ・コーチング
リジェネラティブなリーダーシップの土台を育むプログラムと個別伴走。
事例 外部コーチによるメンタリング・セッションの受講支援

OUR IMPACT MAP 2014-2025

団体設立から11年。

皆さまのからのご寄付によって、現場への支援が実現しました！

46の支援プロジェクトのうち、2025年に行った10のプロジェクトをご紹介します！

アジア太平洋 **14カ国**で
46の支援プロジェクトを実施

1億3,200万円

累計受益者数 **765万人**

緊急支援



バリ島洪水被害

9月上旬、バリ島は記録的な豪雨で、過去10年で最悪規模の洪水が発生。6,000世帯以上が被災。Earth Companyはバリを活動拠点とするヒーローからの支援要請を受け2団体に、総額75万円の緊急支援を実施しました。

- **バリライフファンデーション**: 206世帯の低所得世帯に、食料、衛生キット、毛布などの支援物資を提供。
- **アストゥンカラウェイ**: 地域のNGO6団体を通じて、被災直後の人々に10kgの米175袋を提供。

施設建設

1. 東ティモール・グリーンズクール建設&運営支援
3. バリ島ブミセハット国際助産院建設&運営支援
4. 東ティモール・エコツーリズム施設建設
5. バリ島ブミセハット国際助産院ユースセンター兼避難所建設
10. ブミセハット国際助産院パワアクリニック建設
11. マーシャル諸島気候変動ユースセンター建設&運営費支援
16. ブミセハット国際助産院パラワン島クリニック建設
31. ソロモン諸島の海面上昇から4,000人を守るための護岸壁建設
35. モンゴルのゲル地域での安全なトイレ普及のためのトイレセンター建設費

災害支援

2. ネパール地震緊急支援
7. フィリピン巨大台風緊急支援
8. バリ島アグン山噴火緊急支援
9. ロンボク島地震緊急支援
13. 東ティモール大洪水緊急支援
14. バリ島にてコロナによる困窮家庭への緊急食糧支援
15. マーシャル諸島ユースセンター存続のための緊急運営支援
18. フィリピン巨大台風緊急支援
36. バリ洪水緊急支援 食料支給費
37. バリ洪水緊急支援 生活必需品支援
38. パラワン台風被害 緊急支援

Mongolia 34 35



伝統文化継承のための
絵本制作
支援金額 47.5万円



最貧困層向け医療
保険・ローン・制度支援
支援金額 47.5万円

Afghanistan 43

Pakistan 39

India 29 30
45 46

Nepal 2 41

Bangladesh 42

Myanmar 6 12 17 20
22 12 17 20

Thai 40

21 25 Cambodia

Philippines 7 18 35 38

19 27 28

Indonesia 2 3 5 10 16
33 32 23 24 44

8 9 14 35
36 37 9 14

Timor-Leste 1 4 13

Marshall 11 15

Papua New Guinea 31

建設支援



国内初のトイレ教育センターを開設

安全で衛生的なトイレにアクセスできない人が3人に2人へのぼるモンゴルで、衛生教育の普及啓発とドライトイレ販売の拠点となる「トイレ教育センター」の建設を支援。11カ国215人の皆さまから、総額908万円のご寄付が寄せられました。
→ p26

緊急支援



フィリピン大型台風被害

11月、大型台風「ティノ」がフィリピンを直撃。52万5,000人以上が避難し、153人が死亡する深刻な被害が発生しました。Earth Companyはパラワンクリニックからの要請を受け75万円の緊急支援を実施。炊き出しと簡易シェルター500人分、生活必需品100世帯分、子どもや妊産婦への医薬品を届けました。

環境保護の
次世代リーダー育成
支援金額 47.5万円

飢餓撲滅プログラムを
2コミュニティに展開
支援金額 47.5万円

海面上昇によって削られた海岸線の護岸工事
支援金額 47.5万円

運営費支援

6. ロヒンギャ難民キャンプ難民学校運営費支援
12. ミャンマー平和構築リーダーシップセンター運営費支援
17. ミャンマークーデター発生を受けアドボカシー活動支援
19. ペラ・ガルコス自叙伝執筆&出版支援
20. 900万個のリサイクル石鹸をロヒンギャ難民に届けるために必要な石鹸製造機3機分の資金提供
21. 900万個のリサイクル石鹸を作るためにカンボジアに増員する女性スタッフ雇用
22. 平和活動家の家族亡命支援
23. パンブー・ビレッジイニシアティブ支援
24. パラワン島助産院運営費支援
25. 80万人の難民に石鹸を届けるための大型製造機1機分の資金提供(カンボジア)
26. 80万人の難民に石鹸を届けるための大型製造機1機分の資金の一部提供(タンザニア)

27. 飢餓問題解決プログラムをフィリピンの2コミュニティに展開
28. パラワン島の自然を守る次世代リーダー育成&パンフレット制作
29. 智慧に基づく教育実践者のコミュニティ立ち上げ
30. インドの最貧困層へ少額ローンと保険サービスを届ける
32. HIV陽性者がより良い生活を築いていくためのワークショップ開催
33. サクディア・マルーフ自叙伝執筆&出版支援
34. モンゴルのゲル地域での安全なトイレ普及のための啓発活動費
39. 世界水の日に合わせて寄付キャンペーンの広報・コンテンツ作成費支援
40. 先住民のLGBTQリーダーのドキュメンタリー撮影と上映会費用支援
41. 差別に直面する先住民の居住権を守るための弁護費用支援
42. 献血アプリを多言語対応するためのAI開発費用支援
43. 女性向け起業家育成オンラインプログラムの運営費支援
44. リジェネラティブ農業拡大のための組織基盤強化支援
45. 裁判所へのAI導入推進のための活動費
46. ウェルビーイング教育を公教育に組み込むための普及活動費

IMPACT ACADEMY

インパクトアカデミー支援事業

世界とつながる、自分と出会う

インパクトアカデミーは、世界で起きている社会課題や環境問題など日常生活とはつながりを感じにくい事柄を心と頭で感じ、自分とのつながりを理解しながら、インパクトヒーローたちの生き様を学び、「未来のために自分は何かできるか」を考えていく研修プログラムです。

「未来のための行動は、何歳から始めても早すぎないし、遅すぎない」という思いから、中高生から社会人、シニア層も参加できる公開講座まで幅広くプログラムを提供。受講した多くの人に未来への変化が生まれています。

累計研修本数 **301**本
累計研修者数 **15,184**人

For Schools 教育機関対象

海外研修(バリ島) 「グローバルチェンジメーカープログラム」

バリ島ウブドのエシカルホテル「Mana Earthly Paradise」に宿泊し、ごみ問題、貧困問題などの社会課題のリアルを学び、未来のために自分はどうありたいかを考えます。
オンラインでの事前研修、事後研修でさらに学びを深め、未来への行動に繋がっていきます。

For Companies 企業対象

価値観が揺らぐ体験から気づきを得て、深めた内省から実践につなげる学びを届けています。

Step1 気づき

スズキクエスト〜リジェネラティブな事業探究ゲーム

東京湾の実例を題材にした没入型ロールプレイング研修で、価値観と視点を広げるきっかけを作ります。

Step2 内省・自社接続

海外研修(バリ島)／国内研修(対面・オンライン)

価値観を揺さぶる体験から内省を深め、自分のあり方を問い直し、トレードオン思考で自社ビジネスを見つめ直していきます。海外、国内、オンラインで開催できます。

Step3 実践・定着

Regenerative Futures Camp(RFC)／伴走支援

公開講座(RFC)への参加や、実践へのグループコーチングなどの伴走支援を通じて行動変容の定着化をサポートします。

For Professionals 社会人対象

Regenerative Futures Camp (RFC)

オンラインと対面で学ぶ公開講座を年2回開催。全9回のカリキュラムで、個人としてのあり方を見直しながら最先端のフレームを学び、事業のなかで新たな豊かさを考え実践できるアクションを見つけていきます。



mana
earthly paradise • ubud

エシカルホテル事業

心地よい滞在のなかで 未来のあり方を 実感できるように

人と社会と自然が共繁栄することが心地よいことを体感していただくことを目指した、エシカルホテルMana Earthly Paradise(マナ・アースリー・パラダイス)は、私たちが目指す「リジェネラティブなあり方」をできる限り具現化しています。様々な資源の循環を取り入れた取り組みで国際的な賞も数々受賞。B Corp認証も取得し、2023年には観光庁のサステナブルツーリズムのベストプラクティスにも選出されました！私たちはMana Earthly Paradiseを通じ、事業が繁栄すればするほど周囲の社会や環境が良くなっていく真のリジェネラティブビジネスの実現を目指しています。



施設内の
パーマカルチャー畑で育てた
在来種の野菜を提供する
循環型レストラン



ヴィラの中にも、エコトイレや
エコシャワー、ナチュラルアメニティが
いっぱい！

年間20以上の社会課題を
テーマとしたイベント開催。



2025 ACTIVITY REPORT

2025年の活動報告

ネパール、モンゴルとインパクトヒーローの活動の現場を訪れた2025年。
現地を理解するヒーローたちならではの絆と活動を、Earth Companyは支えています。

2025 IMPACT HEROES

2025年度 インパクトヒーロー支援事業 活動報告



Story of Change

Earth Companyとの出会いで生まれた変容の物語

IMPACT HERO 2023

オユンゲレル・ツェデブダンバ



信じてもらえることが、いちばんの力になった

3年間で振り、Earth Companyの支援は、私たちにとって本当に「救い」でした。モンゴルでトイレの認識を変えることは、人々の生活習慣や常識を覆す、一筋縄ではいかない挑戦です。私たちは長年、ウランバートル中心部のオフィスから、ゲル地区の人たちにその必要性を訴えてきました。人々が実際にトイレを見て、触れて、使って、違いを感じられる拠点が現地にあればトイレの認識も変わるはずなのですが、拠点の設立を自分たちの力だけで実現することはできませんでした。

Earth Companyとの出会いが、すべてを変えた

しかしEarth Companyと出会い、その状況は大きく変わりました。皆さまからの支援で、ついにゲル地区に「トイレ教育センター」が完成したのです。2025年には1,000人以上が訪れ、4,000件を超える電話相談もありました。遠くから呼びかけることしかできなかった私たちが、今は現地で人々を迎え入れ、実際のトイレや暮らしの工夫を見せながら、対話できるようになったのです。この成果以上に、私にとって本当に大きな意味があったのは、Earth Companyが「夢や計画を形にする自由」を与えてくれたことです。他の支援では、細かな条件や手続きがあり、いつも制限がありました。でもEarth Companyは細かな報告を求めたり条件をつけることなく、私たちを信じてくれました。それがとても嬉しかったのです。

この3年間は、夢が現実になっていく時間だった

そしてその自由は、私自身の見方も変えてくれました。Earth Companyと対話しながら、自分たちが何を生み出し、何を目指しているのかをこれまで以上に考えられるようになりました。以前は、目の前の課題に精一杯で、数年先の可能性を具体的に描く余裕はありませんでした。でもこの3年間で可能性を見直し、目標もより明確になりました。自分たちの仕事の価値を、より深く理解できるようになったのです。支援を受ける側にとって、「信じてもらえること」は、想像以上に大きな力になります。何をすべきかを外から決められるのではなく、自分たちが本当に必要だと信じることを、自分たちの責任で育てていける。その信頼があったからこそ、私たちは活動を続け、広げ、そして進化させることができました。

今トイレ教育センターは、人々が新しい暮らしの可能性に出会う場所になりつつあります。私にとってこの3年間は、支援を受けた時間というより、自分たちの夢が、自分たちの手で現実になっていく過程でした。その歩みに、心から感謝しています。

2025 HIGHLIGHTS

2025年の支援活動のハイライト

IMPACT HERO 2023

オユンゲレル・ツェデブダンバへの支援

寄付総額
1,478 万円

3年間で届けたトイレの数
261 基

トイレ教育センターの訪問者
1,000 人+

支援ニーズ

オユンゲレル(以下、オユナ)が普及を進めるドライトイレは、衛生・環境面で大きな可能性を持つ一方、モンゴルではまだ一般化しておらず、実物を見て価値を理解できる常設の体験・発信拠点がないことが普及の課題でした。

Earth Companyの支援が目指すところ

2030年までに6,000基を届ける目標に向け、ロードマップと戦略づくりを支援。常設施設の建設を後押しし、普及啓発・販売・安定収益につながる拠点づくりを目指しました。

支援内容

1. 建設費・活動費の支援

トイレ問題が特に深刻な、モンゴルの首都ウランバートルで拡大するゲル居住区に、衛生教育の普及啓発とドライトイレ販売の拠点となる「トイレ教育センター」を建設するため、クラウドファンディングを実施。11カ国215人の皆さまから総額806万円のご支援が寄せられました。加えて、Earth Lovers(継続寄付者)の皆さまからのご寄付470万円を、ドライトイレ活用のための本の制作・印刷費および普及啓発活動費として届けました。

2. 中長期戦略策定に向けた短期集中バリ合宿

2030年までに、都市部人口の4%にあたる6,000世帯へドライトイレを届けることを目指し、財務計画を含む中長期のロードマップを策定しました。

3. 製品改良と支援者拡大に向けた来日支援

オユナを日本に招聘し、ドライトイレの普及で連携可能性のある企業や関係機関を訪問しました。あわせて、複数のメディア取材も受けました。

【訪問企業・メディア取材】・株式会社LIXIL・一般財団法人UACJ軽やか財団・共同通信・J-WAVE

モンゴルからの
現地レポートはこちら



支援成果

1. モンゴル初のトイレ教育センターがオープン!

2025年11月、首都ウランバートルのゲル地区に、ドライトイレを実際に見て体験できるモンゴル初のトイレ教育センターが開業。衛生教育と販売の拠点として、暮らしの課題に応えるエコ製品も紹介する包括的な施設となりました。



2. ドライトイレの販売数が前年比3倍に拡大

センター開業と代理販売の強化により、2025年は前年度の3倍となる151世帯にドライトイレを届けました。

3. 地域住民からの問い合わせ・来訪が急増

初年度の来訪者は1,000人以上、電話での問い合わせは4,167件にのぼり、衛生的なトイレへの高い関心が見られました。

4. 事業収益の増加による財源の安定化

2026年にはトイレ販売の利益で団体運営費の30%、3年後には70%を賄える見込みとなりました。

5. タブーを越えた意識変容

トイレの話題がタブー視されがちなか、想定を上回る反響があり、衛生的なトイレ導入への意識変容が大きく進みました。

IMPACT HERO 2024

スリヤ・カルキへの支援

2025年5月、Earth Companyの支援チームがネパールを訪問し、厳しい環境にあるへき地山間部の学校や地方政府をはじめとする関係者を訪問しました。今後のスリヤ支援に向けて、現地の教育ニーズを把握するとともに、関係者との顔合わせと関係構築を実施。さらに、活動の意義に加えてスリヤのライフストーリーも伝える動画制作を支援し、資金調達と広報強化に向けた基盤づくりを進めました。

ネパールからの現地レポートはこちら



IMPACT HERO 2025 フレシュタ・カリムへの支援

2025年10月、タリバン政権の規制強化により、フレシュタが率いるアフガニスタンのNGO「Charmaghz」は移動型図書館事業の停止と団体閉鎖を余儀なくされました。Earth Companyは、新たに米国で立ち上げるNGOによる女子向けオンライン教育事業の構想と、2026年以降の事業計画づくりを支援しました。

IMPACT HEROES 2025期生への支援

6カ国8名のヒーローに、1年間のアクセラレーション・プログラムを提供しました。オンラインセミナー、バリキャンプ、専門家メンタリング、1人あたり3,000米ドルの助成金を通じて活動を後押し。ヒーローたちは大統領諮問会議への参加や国際会議登壇など、活躍の場を広げています。

ヒーローズ・バリ・キャンプのハイライト動画はこちら



IMPACT HEROES 2024

これまでに支援した ヒーローたちの今をご報告！

2024年12月、Earth CompanyはIMPACT HEROES 2024期生の7人へ、Earth Lovers(継続寄付者)の皆さまからのご寄付を原資に、一人あたり3,000米ドル、総額21,000米ドルの助成金を提供しました。この助成金により、ヒーローたちがアジア太平洋で生み出した変革をご報告いたします！



農村部での飢餓解決
フィリピン農村部では4人に1人が極度の貧困状態。元NY金融出身のアイシャが設立したARKは、家庭菜園の野菜を地域内で物々交換する画期的なプログラムで、貨幣に頼らない食料確保の仕組みを実現。行政とも連携し全土展開を目指す中、今回の助成金で6市町村・5,123世帯に支援を届けました。



環境保護の次世代リーダー育成
"フィリピン最後の秘境" パラワン島の自然が、違法伐採や違法漁業によって深刻な危機に。環境弁護士ポビーが率いるPNNIは、森林・海の監視や現場でのチェーンソー押収など命懸けの活動を展開。今回の助成金で6名の次世代リーダー候補を育成し、そのうち1名はすでに法務部門メンバーとして活躍しています。



次世代型の教育開発
急速な近代化で失われゆく地域の伝統文化や自然の智慧を「絵本」として次世代へ。研究者ディーバックは、インド各地の教師12名を対象に2ヶ月のオンラインプログラムを開催。助成金を通じて8冊の絵本が完成し、図書館での配布や読み聞かせ会を通じて700人超の子どもたちへ届けられました。



貧困層の金融包摂
銀行口座も持てないインドの低所得者層は、緊急医療費のために高利貸しへ頼らざるを得ず、生活が破綻するケースが後を絶ちません。リアンが運営するQONECTは、担保提供により即日加入できる医療ローンを実現。今回の助成金で新たに47人が金融サービスへアクセスできるようになりました。



気候変動への適応
気候変動で既に23メートルの海岸線が失われたソロモン諸島。ミリセントは地域住民と応急護岸壁を建設しながら行政へ働きかけを継続。今回の助成金で実現した行政との会合が決定打となり、気候変動対策予算から2,270万円が拠出。今後3年間で60メートルの護岸工事が正式承認されました。



DV・性被害者の支援拡大
インドネシア初のムスリム女性コメディアン、サクディアは笑いを「癒やしの手段」として女性のトラウマ克服に挑んでいます。プログラム卒業生から4名がプロの舞台へ羽ばたき、地域の少女10名にもパフォーマンスの機会を提供。また、サクディアは民間会社とのプロデュース契約の締結に成功しました。



HIV陽性者のコミュニティと生計支援
偏見と差別が根強いインドネシアで、HIV陽性者当事者のスコットが仲間の自立を支援。6ヶ月のオンラインプログラムに36名が参加し、悩み相談から起業基礎まで学びました。その結果、2組が事業を立ち上げ自らの収入を生み出すことに成功。孤立しがちな当事者に希望の道を切り開いています。

Earth Companyの支援は、プログラムの終了で終わりではありません。インパクトヒーローたちはその後も、それぞれの現場で挑戦を重ね、立場や役割を変えながら社会変革に関わり続けています。ここでは、支援後も広がり続ける彼らのインパクトをご紹介します。

Earth Company支援プロジェクトの発展

IMPACT HERO 2022
サミール・ラカーニ
カンボジア、ネパールほか|保健衛生

国際機関の予算削減で人道支援が厳しさを増すなか、サミール率いるEco-Soap Bankは2025年に150万個の石けんをロヒンギャ難民の女性・子どもたちへ届けた。手洗い実施率は62%から97%へ向上し、下痢の発症率も74%減少。「命を救う石けん」の活動は継続中。



IMPACT HERO 2017
キャシー・ジェットニル＝キジナー
マーシャル諸島|気候変動

海面上昇に直面するマーシャル諸島で、キャシーが設立した「Jo-Jikum」は気候危機に立ち向かう次世代リーダーを育成しています。育った若者たちはCOP30にも参加し国際舞台で活躍。キャシー自身は代表を後継者へ継承し、現在は気候変動大使として政策議論を牽引しながら博士号も取得しました。



IMPACT HERO 2016
ロビン・リム
インドネシア・フィリピン|保健医療

24時間365日、無償で出産を支えるプミセハット助産院。Earth Companyの支援で建設されたバリ島・パプア・パラワンのクリニックでは、2025年に計580人の赤ちゃんが誕生しました。さらにロビンの著書『胎盤の神秘』の日本語訳が完成し、2026年度の出版が予定されています。



ヒーローたちの今

IMPACT HERO 2015
ベラ・ガルヨス
東ティモール|環境教育・LGBTQ+の権利

長年にわたる環境教育と、女性やLGBTQ+の権利擁護の活動が評価され、ベラは東ティモール大統領府主催の国内最高峰の人権賞を受賞しました。LGBTQ+への差別がなお色濃く残るなか、同性婚をめぐる批判により政治活動が制限される逆境にあっても、真実を語り続けてきた姿勢が高く評価されました。



IMPACT HERO 2019
ウェイウェイ・ヌー
ミャンマー|平和構築

ウェイウェイは、2025年の国連総会で、ロヒンギャやミャンマーの少数民族に対する人道支援がなお十分に届かない深刻な状況を訴えました。また、ロヒンギャへのジェノサイド認定をめぐる国際司法裁判所での裁判にも関わり、2017年の事件から10年となる2026年度中の判決獲得を目指して活動を行っています。



IMPACT HERO 2021
アリーフ・ラビック
インドネシア|森林再生

インドネシア発の「バンブービレッジ」が世界へ。炭鉱採掘で荒廃が深刻なインド北東部メガラヤ州でもこのモデルが採用され、竹を通じた環境再生と生計向上の取り組みとして、2028年までに100億ドル規模のグリーン・インクルーシブ経済実現を支える一翼を担っています。



WHAT'S NEXT IN 2026?

2026年のインパクトヒーロー支援事業

変革を担うリーダーへの伴走を、さらに深く

社会を変える挑戦は、志や能力だけで続けられるものではありません。Earth Companyはこれまでの伴走を通じて、ヒーローたちが大きな重圧と責任を背負う一方で、その葛藤や孤独に寄り添う支えが十分ではないという課題を強く感じてきました。複雑で不安定な時代の中で、変革を担うリーダーたちには、前に進み続けるための土台が必要です。2026年、Earth Companyはインパクトヒーロー支援をIH3.0へと進化させ、従来の組織基盤強化に加え、リーダー一人ひとりのレジリエンスやウェルビーイングにも焦点を当てた、Earth Companyらしい伴走をさらに深めていきます。ここからは、その新たな支援のもとで取り組む、2026年の主な内容をご紹介します。

IMPACT HERO 2024

スリヤの新たな挑戦

スリヤが2026年に挑むのは、これまでの基礎教育支援をさらに発展させた、新しい学校モデルの実現です。すでに彼はこの構想を推進するための新しいNGOを立ち上げ、都市部や都市周縁部の厳しい環境に置かれた子どもたちに向けて、幼少期から高校卒業後の進学や就業までを見据えた包括的な学びの場づくりを進めています。教育の質に妥協せず、食事や通学、健康面まで支えるこのモデルは、単なる学校づくりにとどまらず、ネパールの教育の未来を描き直す革新的な挑戦です。Earth Companyは、この希望に満ちた一歩が、次世代の可能性をひらく新たなモデルへ育つよう伴走します。

IMPACT HERO 2025

フレッシュタの移行と再出発

フレッシュタは今、新しく立ち上げたFreshta Foundationの経営責任者としての役割を信頼するチームへ引き継ぎながら、アフガニスタンの女子教育に関わり続けるリーダーとして、自らの次のあり方を模索しています。Earth Companyは、事業面での伴走に加え、ウェルビーイングの回復やリーダーシップコーチングの機会も視野に入れ、彼女が無理なく持続可能なかたちで次の一歩を選べるよう支えていきます。彼女自身の歩みが、これからも少女たちの未来へつながっていくよう、丁寧に寄り添っていきます。

IMPACT HEROES Class of 2026

9人の歩みを支える 新たな伴走

今年度選出された9名のヒーローたちへの支援では、組織基盤強化に加え、リーダー個人の内面的成長を支える学びを強化します。「自分と他者を理解すること」「ウェルビーイング・マネジメント」「非暴力コミュニケーション(Non-Violent Communication)」などの新たな内容に加え、個別コーチングや助成金の早期提供も導入予定です。志あるリーダーたちが孤立することなく、自分らしい変化を育み続けられるよう、Earth Companyは伴走支援をさらに深めていきます。

IMPACT HEROES CLASS OF 2026

過去最多となる18カ国105人から応募が寄せられたIMPACT HEROES CLASS OF 2026。

その中から、Earth Companyが1年間にわたり伴走支援を行う9人のヒーローを選出しました。

今年のヒーローは、全員が非営利組織を率い、その多くが設立10年以内。

活動を大きく飛躍させる転換点に立つ今、私たちの支援が彼らの次の一歩を支える重要な機会となります。



Aaditya Rai
アーディティヤ・ライ
ネパール | Rainbow Disability Nepal
沈黙を強いられてきた現実に、ネパール初の〈LGBTQ+ × 障がい〉の声で風穴を開けた権利運動のパイオニア



Fainta S. Negoro
フェインタ・S・ネゴロ
インドネシア | Jaga Semesta
企業キャリアを手放し、水の専門知でインドネシアの水資源の危機に挑む社会起業家



Girish Mehta
ギリシュ・メータ
インド | CareLeavers Inner Circle (CLiC) Forum
孤児院出身という原体験を力に、施設退所後の若者に「新たな人生」を届けるインドの若きリーダー



Heidyy Quah
ハイディ・クア
マレーシア | Refuge for the Refugees
18歳で立ち上がり、マレーシア国内の5,000人以上の難民の子どもに学びの希望を届けてきた教育リーダー



Hendrick Kaniki
ヘンドリック・カニキ
ソロモン諸島 | Sirubai Voko Tribe Association
気候変動の最前線・ソロモン諸島で、私財と人生を賭して地域を守り続ける村で唯一の医師



Kumar Paudel
クマール・パウデル
ネパール | Greenhood Nepal
ネパールで密猟と権力に立ち向かい、科学と政策の力で絶滅危惧種の命を守る、正義の研究者



Nerlian Gogali
ネルリアン・ゴガリ
インドネシア | Institut Mosintuwu
宗教紛争の傷が残るインドネシア・ボンで、教育を通じて女性の声から平和を築く、地域に根ざすリーダー



Trang Nguyen
チャン・グエン
ベトナム | WildAct Vietnam
山間部の最前線で、女性たちと共に野生動物を守り抜くベトナムの環境活動家



Watcharapon Kukaewkasem
ワチャラポン・クカウカセム (シア)
タイ | Freedom Restoration Project
DV被害にあう移民女性と子どもたちに、タイ国境で安全と尊厳を取り戻す居場所を届けるアカ族リーダー



2025 IMPACT ACADEMY

2025年度 インパクトアカデミー研修事業 活動報告

2025年の研修本数 **69** 本

2025年の累計研修者数 **2,138** 人

Story of Change

Earth Companyとの出会いで生まれた変容の物語

大入将太郎さん

(株式会社たきコーポレーション IGI、アートディレクター)



「命を意思決定のど真ん中におく」をマネジメントの軸に
小学校5年生の頃、自由研究で合成洗剤をテーマにしたことがある
のですが、その時にいろいろ調べて環境問題などに興味を持つよう
になりました。その想いがあったので、自分の得意なデザインの分
野で、「デザインの力で社会課題を解決したい」と思ったのがこの仕
事を始めたきっかけでした。

会社でも、チームで「社会課題に対して自社の価値を使ってこう解決
する」という手法（パーパスブランディング）を創り出して、顧客に提
案していたのですが、どこかにずっと違和感もありました。パーパスを
掲げる企業を日本にもっと増やしたいと思う一方で、人間活動をす
ればするほど社会課題が増えていく中、どうしたらいいのだろうと。
転機となったのは、Earth CompanyのRFCへの参加です。今まで
の「AかBか」という考えではなく「AもBも」という考え方や、「命を全て
の行動と意思決定のど真ん中に置く」という考え方に触れた時、長
年のもやもやが一気に晴れる感覚がありました。これが自分の判断
基準になる、と直感したのです。

そしてチームは「競い合い」から「称え合う」へ

この気づきを得て、まずは自分の身近なチームのマネジメントから
変えていきました。もともとデザイン業界は「競い合って成長する」と
いう暗黙のルールがあり、仲間が賞を獲得しても心から喜べない、
そんな命の削り合いのような空気がありました。それもどうなんだろう
とずっと思っていたのですが、「命を真ん中に置く」という軸を得て
から、目指すべきチームの姿が明確になりました。競い合いではなく、
互いの素晴らしい成果を称え合える組織にしたい。それがメンバ
ーの幸福にもつながっていくような組織でありたい。それまでマネ
ジメントにも迷いがありましたが、その軸が定まったのです。
そこで「世の中から支持され、自組織の真の『やりたい!』を実現で
きる未来」を目指し、メンバーがどんな未来のために何をやりたいと
思っているのか6時間かけてみんなで共有しました。その後、一人ひ
とりとの面談を定期的を実施し、リモート中心の環境でも気軽にコ
ミュニケーションできるよう、雑談ボードを導入。メンバーがどうすれ
ば成長していけるかを、マネジメント層で定期的に話し合うようにな
りました。その変化として、以前は距離を感じていたメンバーが、気さ
くに話しかけてくれるようになり、私自身もメンバーが成長する姿に
ワクワクし、心から嬉しいと思えるようになった。個人の内側で起き
た変容から始まり、チームや組織も少しずつリジェネラティブに変わ
りつつあります。

900名以上がバりに！ 変容が生まれる海外研修

2025年、国内外から900名以上の学生・社会人がバリ島を訪れ、Earth Companyとともに社会課題の最前線で学びました。非日常の体験が得られる場所は世界中にあります。しかし、10年以上かけて築いたチェンジメーカーや現地コミュニティとの信頼関係、B Corp認証ホテルでの滞在、そして豊かな自然のなかで「トリ・ヒタ・カラナ（神・人・自然の調和）」という哲学が生きるバリ島という環境が重なって初めて実現する深い学びと変容があります。ここでは、2025年の主な研修事例と、インパクトを生み出せる理由をご紹介します！



モヤモヤに寄り添う研修だから人は変わり始める

自分らしく世界を再生していく人を育てるには、どのような研修を届けばいいのだろうか？知識だけでは仲間にはできないし、気合いだけでは継続が難しい。だからこそ、知識だけではなくあり方も模索できる、唯一無二の研修になるよう寄り添った学びを届けてきました。

研修では、「豊かさとは何か」「自分はどうかしたいか？」という問いも考え、深めています。バリ島で同じ場所を訪れても、感じ方や見え方は人それぞれ。その「視点の違い」を認識することこそが、自分の価値観を見つめ直す上で大切な第一歩なのです。参加者に変容を強く感じるのは、現場体験の後に感じる「不満や揺れ」を言語化し、共有し始めた時です。その感情を、「このモヤ

モヤは自分の変化の一部なんだ」と受け入れた時、内的な変容の準備が整ったと感じます。

変容は1回の気づきで起こるのではなく、揺れや迷いを重ねる長いプロセス。しかし、内的変容が始まれば、研修終後に元の思考や習慣へ引き戻されるような局面でも、立ち戻れる軸をもてるのです。今年の研修で、行動変容が起きた参加者が多かったのは、このプロセスが影響しているのだと感じています。

インパクトアカデミー研修事業部
シニアマネージャー 藤本亜子



何が学べる？体験できる？

Earth Comapanyのバリ島研修プログラム

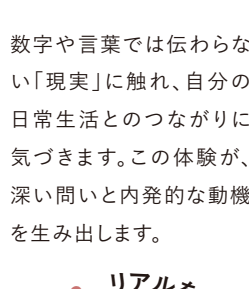
価値観を揺さぶり、物の見方や考え方が変わっていく。

Earth Companyのバリ島研修は、参加者の内側から変容を起こすために、4つのステップを軸に設計されています。

感じ、考え、言葉にするこのプロセスが、帰国後の行動変化を生み出します。



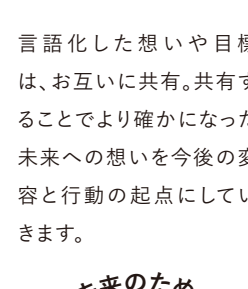
五感をフルに使うと、より記憶に深く刻まれます。バリ島の豊かな自然や文化に触れ、学びと体験を深められるよう、感受性を開きます。



数字や言葉では伝わらない「現実」に触れ、自分の日常生活とのつながりに気づきます。この体験が、深い問いと内発的な動機を生み出します。



毎日の振り返りで、揺さぶられた感情や気づきを丁寧に言語化。「何故そう感じたか」も言語化し、自己理解を深め、価値観の軸を育みます。



言語化した想いや目標は、お互いに共有。共有することでより確かになった未来への想いを今後の変容と行動の起点にしています。

2025年のプログラム事例

For Schools

横浜商業高校

知ることが、「やってみよう」になり 温かい支援が実現！

この研修では、Earth Companyが支援するブミセハット国際助産院の創設者ロビンの活動を事前に学んだ生徒が、実際に助産院を訪問し、ロビンに会いました。生徒たちは1年かけてバリの課題のために何ができるか考え、ごみ山で働く家族の子どものために寄付や、ブミセハットで出産する家族へタオルの寄付を校内で募りました。そして子どもたちにはクリスマスギフトを、ブミセハットの赤ちゃんにはタオルを届けることができました。生徒の行動が、温かい支援につながったのです。

さらに、研修後に生徒が「日本のリジェネラティブツーリズム」を個人探求のテーマにするなど、生徒が日常で学びを実践していく「生きた学び」になっています。



●参加者の声● 生徒の為に多くの研修プログラムを探しましたが、ここしかない心動かされたのがEarth Companyでした。ブミセハットのお話はかなり衝撃的なものですが、だからこそ生徒たちの心にも響いたと思います。「学びを机上の空論にしない」という思いのある先生方や学校にはぜひおすすめいたします。（横浜商業高校 小島先生）

For Companies

パナソニックホールディングス株式会社

自分の「境界」を超え 自分らしいリーダー像を描く5日間

2025年2月、パナソニックグループの次世代リーダー共創プログラムの一環として、20～30代の若手メンバー14名に海外越境学習を提供しました。

この研修のねらいは、「型にはまらないリーダー像を探る」「心理的安全性のある環境で本音の対話をする」「非日常の体験を通じて自己の殻を破る」という3点。参加者は、社会課題解決の最前線で活動する多様なリーダーたちとの対話を通じ、「リーダーシップに正解はない」ことを体感し、満足度は10点満点中平均9.57点。「自分の『境』を超え、ヨロイを脱いで共に前進する仲間ができた」という声が象徴するように、越境学習だからこそ生まれる深い変容が、次世代リーダーとしての確かな一歩となりました。



●参加者の声● 今まで描いていたリーダー像は、このVUCA時代にスピード、効率、成果の全てを満たす弱さのない完璧な姿でした。ただ、そんな完璧なリーダーを目指すには、いくら鎧があっても足りないと感じ、自然体でいること、人の内側から出てくるエネルギーをいかに引き出せるかが大切だと気付きました。

学ぶだけでなく、地域の社会課題解決も！

250本以上の植林と若者の夢、そして取り戻した村への誇り

Earth Companyの研修が訪問先にどんな影響をもたらしているのか。研修で訪れるクレチュン村のリーダー・アニークにそのインパクトを教えてくださいました。

クレチュン村は、農地の80%を観光開発を行う海外企業に売却し、村の人々も自信と誇りを失っていました。しかし研修で訪れる人々と交流し、それが変わりました。3年間の起業トレーニングでも行動に移せなかった若者たちが、Tシャツ販売に踏み出し、その売上でカフェも開業。Earth Companyの研修は、若者たちの「自分のビジネスを持つ」という夢を叶え、村の人々に自信を取り戻してくれました。

特にサントリーホールディングスの研修では、2年間で250本以上の木が植林され、今や緑豊かに生い茂り、美味しい果物を実らせています。そして賜ったご寄付で整備された電力室やトイレは、この森での活動を支え、村の誇りとなっています。



ワクワクする学びの体験を！ 新たな2つのプログラムを 開発しました！

楽しみながら、これからの時代に必要な「人と社会と自然が共繁栄するリジェネラティブな考え方」が身につく。そんな学びを目指し、2025年は企業研修「スズキクエスト」、高校の探究学習プログラム「リジェネラティブクエスト」を開発しました！

2025年度
グッドデザイン賞
受賞！

海やスズキと一緒に考える「新たな豊かさ」とは？ 「スズキクエスト～リジェネラティブな事業探究ゲーム～」

累計参加者数 **109人**

東京湾のスズキ漁をテーマに、「海」や「スズキ」の視点も入れて未来につながる「新たな豊かさ」を考えるロールプレイング型ワークショップ「スズキクエスト」。価値観や視野が広がる学びの設計で、リジェネラティブをコンセプトにしたワークショップとして日本初のグッドデザイン賞を受賞しました。



グッドデザイン賞評価コメント

“参加者は人間だけでなく自然や環境など多様な存在の立場を体験し、事業デザインを根本から見直す視点を獲得することができる。従来の短期的な利益や効率に偏りがちな考え方を超え、世代を超えた時間軸や多面的な資本観に目を向ける仕組みは独創的であり、深い学びと共感を引き出している。持続可能性を超えた「新しい豊かさ」を社会に広げる取り組みとして意義深い。”



高校用探究学習教材 「リジェネラティブクエスト」

累計受講者数 **704名** (2024年からの累計)

このプログラムでは、生徒が主体的に地域でのよりよい未来のための取り組みを探し、「もっとよくするには？」という価値創造型で新たな企画を考えていきます。そのプロセスで、リジェネラティブという考え方に自然と触れていきます。

2024年度のトライアルを経て、2025年度は最短3コマから始められる無料教材も新たにリリース。導入校では生徒が実際にイベントを企画・実施するまでに発展した事例も生まれました。無料教材・有料プログラムあわせて、全国のさまざまな学校にリジェネラティブな学びを広げていきます。

開発背景

今までは「心に火がつけば人は動き出せる」という考えから、「内的動機づけ」を重視し研修を設計してきました。一方、「腹落ちはしたが、やり方が分からない」という声も。そこで、「異なる価値観を持つステークホルダーと、より良い未来を考え合意形成する」という実践・推進の要に焦点を当て、多くの方々に楽しく学んでいただけるロールプレイング型の研修を開発しました。



開発担当 近藤まいかより一言

先住民の方々から学んだ、動物、川、木々の声を聞く姿勢。この学びを現代社会の実例に織り込んだ「スズキクエスト」を通して、自然破壊や搾取に陥りがちなビジネスや社会の在り方から転換するヒントを感じていただけたら嬉しいです。

参加者の声

ゲームと銘打って敷居を低くして学べる機会が斬新でした。初めて顔を合わせた方同士でも「役になりきること」で緊張がほぐれ自然にコミュニケーションがとりやすいステキな仕掛けだと感じました！

開発ポイント

1 東京湾で実際にあった物語

東京湾で日本初の漁業改善プロジェクト(FIP)を行い、「漁獲高3割減、売上維持」を実現した実例を元に設計。リアルなストーリーで「人と社会と自然が共繁栄するあり方」を疑似体験できます。

2 「海」や「スズキ」も意見する

米国先住民がサーモンや自然を運命を共にする仲間と捉え、何十世代先を見据えた意思決定をしていることを参考にし、「海」や「スズキ」などの非人間も議論の場に対等に存在させています。さらに年齢・趣味・未来への願いなど役の細部まで設定し、自分で役名を決めるプロセスで没入感を高めています。

海、スズキという普段は声を発することができないステークホルダーに声を与えることでこんなにも見え方が違うのかと面白く、そこから自身の企業に落とし込むと、ゲームをやる前とは違うところに気づく点が非常に勉強になりました。

富士急グループと共同開発！自然のなかで未来を語り合うチームビルディング

スズキクエストを活用し、新たなチームビルディング研修プログラムを富士急グループと共同で開発しました！自然環境の中で五感が研ぎ澄まされることで、人は「今ここにいる自分」に集中でき、日常の思考パターンや先入観から離れて、感受性が高まります。自然溢れる環境配慮型施設のPICA山中湖で、肩書きを超えて本音で向き合い、チームの結束を高める体験をしてみませんか？



開発背景

現場の先生方との対話を重ねて開発

「リジェネラティブな思考を、次世代を担う高校生に届けたい」そんな私たちの想いと、「地域に密着した探究学習を行いたい」という教育現場のニーズから開発がスタート。現場の先生と対話を重ね、学習現場の課題も解決でき、先生の負担を減らしながら、主体的に生徒が学べる教材として開発しました。



開発担当 相原里紗より一言

このプログラムが、新たな視点で地域の魅力を再発見し、行動するきっかけになっていることがとても嬉しいです。探究に課題を感じている学校にぜひ届けていきたいです。

開発ポイント

次世代へ届ける、 リジェネラティブな思考と体験

生徒が地域を新しい視点で見直し、社会課題に関心を持てるようになることを大切にしています。リジェネラティブな視点を直感的に理解できるよう独自に開発した6つのキーワードを活用。グループワーク主体で生徒のワクワク感を引き出す、アクティブな学びを設計しました。

愛知県立刈谷北高校 山本孝次先生

探究学習のプロセスを一通り体験できる教材です。生徒たちは新たな企画づくりに自由な発想で挑戦し、主体的かつ意欲的に取り組んでいました。自らのアイデアを形にしていく経験を通して、創造することの楽しさや探究する面白さを実感できたと感じています。



2025

MANA EARTHLY PARADISE

2025年度 エシカルホテル事業 活動報告

2025年の総利用者数 **30,115人**

Google Review **4.7** ★★★★★

Story of Change

Earth Companyとの出会いで生まれた変容の物語

ハサン・ファウジ

(Mana Earthly Paradise マーケティングマネージャー)



職場での学びが、家族の生き方も変えていく

私は持続可能な開発については問題意識を持っていましたが、Mana Earthly Paradise(以下、マナ)に出会うまで、ホスピタリティ業界でリジェネラティブな実践をこれほど具体的な形で体現しているビジネスに出会ったことはありませんでした。

以前の私は、責任ある選択をし、環境に与える影響を最小限にするという「正しいこと」ができれば十分だと思っていました。しかし2025年9月からマナで働き始めると、その視点は大きく変わりました。自分自身の正しさだけでなく、私たちを取り巻くより広いエコシステムに貢献できるよう、意図を持って行動することが大切だと思えるようになったのです。

この変化が、仕事に強い使命感をもたらしました。マナでの毎日は、従来のサステナビリティを超えて、持続的なポジティブインパクトを生み出すことを問い続ける、学びの場でもあります。

その学びの現場で、「リジェネラティブ」という価値観が日常の行動に実践されていく様子を目の当たりにしています。意味ある変化は、必ずしも大きなことから始まるわけではなく、小さく一貫した選択の積み重ねから生まれるのだと気づきました。

それに気づいてから、私自身の思考も「成果志向」から「貢献志向」に変わりました。同僚に心からの温かさで接すること、ゲストにより丁寧に寄り添うこと、マーケティングや体験づくりを通じてマナのリジェネラティブな価値観を広げ、深めていくこと。「何が機能するか」だけでなく、「人と場所にとって長期的な価値を生み出すものは何か」を常に考えるようになりました。

そしてこの変化は、家族にも広がっています。マナの廃棄物管理のやり方を自宅でも取り入れ、妻や娘にもその考え方を伝えました。ごみの適切な分別、節電、食の選択、自然との時間を持つなど、シンプルながら意味深い実践が、自然と家族の暮らしにも取り入れられ、その一部になっていったのです。

またマナのチームメンバーとは、日々の実践を通じて共通の認識が育まれています。みんな自分の選択により意識的になり、リジェネラティブな仕事の意味と自分のつながりを深めようとしています。

これこそが、本当のインパクトだと私は思います。私にとってそうだったように、マナで体験した価値観が、周囲の人々の暮らしをポジティブに変えていく—この連鎖の中に、リジェネラティブな変容の本質があると感じ、そんな体験をゲストの皆さんに届けられるよう、日々努めています。

MANA'S HIGHLIGHTS 2025

リジェネラティブなホテルから生まれる、小さな変容の数々

Earth Companyの目指すリジェネラティブなあり方を具現化したホテルとして、多彩な挑戦と深化を重ねた2025年。チーム全員の当事者意識がブランド力を高め、新メニューでゲストのウェルビーイングを高め、リトリートや地域イベントなどでゲストの暮らしに変容のきっかけを提供する。そんな小さな実践で人と自然と社会が共繁栄するあり方を日々の営みで体现し、変容の波を広げた一年のハイライトをご紹介します！

TOPIC 1

プロバイオティック(発酵)・デリの開始！

2025年11月、マナキッチンに新たに「プロバイオティックデリバー」が登場！代表濱川明日香と、マナキッチンの監修・サポートをしてくださっているフードプロデューサー・Peace Kitchen Tokyoの比嘉康洋シェフの創業時からのビジョンが満を辞して実現しました！幸せホルモンであるセロトニンの9割は腸内で作られています。腸の健康は「幸福感」と直結しているのです。塩麹などの発酵食をふんだんに取り入れて腸を活性化し、豊富なタンパク質で基礎代謝を上げ脂肪燃焼を促すことで、心身共にハッピーになるデリを目指しました。お好みのデリで、その美味しさはもちろん、食べる人、作る人、地球の全体的なウェルビーイングをサポートする食体験をしに、ぜひ遊びにきてください！

TOPIC 2

自然とのつながりを取り戻す！ 多くのリトリート受け入れ

サントリーHD(11グループ)やパナソニックHDなどの企業研修、シンガポール国立大学や立命館高校、greenzなどメディアや団体など、国内外からたくさんの研修がきてくださいました！それに加え、2025年はヨガリトリートなどウェルネスコミュニティからのプログラムが増加。多様なゲストに、自然とのつながりを取り戻し、自分も人も地球も大事に生きる体験をしていただきました。

TOPIC 3

共感の輪が広がる！ RE-BALIイベント開催

「バリについて」「バリをリジェネラティブに」という意味を込めて周年イベント「Re:Bali」を開催！リジェネ体験や、ローカルヒーローのトークショー、社会問題や環境問題に切り込むロックバンドによるパフォーマンスを通し、バリ島が直面する課題に向き合う熱いイベントに！なんと参加者の9割がインドネシア人で、彼らのマナへの共感や未来への期待を感じ、感慨深いイベントとなりました！

TOPIC 4

RE-Loveマーケットで 「大切なモノ」に新たな価値を

12月12日、「大切なものを交換・販売・寄付する一日」をテーマに「Mana Re:Love Market」を開催。隣接するシュタイナー学校の保護者が主体となり、地域の親子が集い、衣類廃棄問題への意識を高めながらフリーマーケットを楽しみ、子どもたちはキャンドル作りと映画鑑賞を、親たちはライブミュージックで寛ぐ温かな一日となりました。これからはマナは、リジェネ x 課題解決 x コミュニティの掛け合わせとなるハブとして、成長していきます！

お客様の声

環境にここまで配慮されたホテルは、なかなかありません。お庭、レストラン、お部屋、どこを切り取ってもおしゃれで、理想がぎゅっと詰まった場所でした。たくさんの人に、このmanaの想いとコンセプトを知ってほしいです。

何よりも感動したのは、そこにいてだけで、他の人々と共にたち、変革者たちを支援し、大地にやさしく歩み、より大きな思いやりの輪の一員となれたこと。スタッフ一人ひとりが優しさと喜びを放ち、この場所の心が彼らを通して脈を打つかのようだ。

地球とともに生きるヴィラ。全てが循環していて、地球とともに生きていと感じる空間。スタッフもみんな優しくて、癒やされる。料理もここで作られたエネルギー溢れる食材が使われていて、身体に染み渡る。ここに来るためだけにバリに来る価値がある。



MEDIA COVERAGE

メディア掲載回数 18回

1月	「絶望するにはまだ早い。これからの地球で、希望を取り戻すためにできること」	greenz
3月	【バリ島ウプド】自然との共生が最先端。泊まるなら、未来志向のアジアンリゾートへ	JAL Agora Plus
	アジア3カ国の意識調査で判明！日本のビジネスパーソンは気候変動を最も「他人事」と捉えている？	PR TIMES
4月	日本のビジネスパーソンは気候変動に無関心？	Forbes Japan
	NGOがバリ島で次世代リーダーを志すパナソニックグループの若手メンバーに越境研修を提供	exciteニュース
5月	緊急来日決定「言葉ではなく行動を！」映画『デリカド』主人公 環境弁護士ゴビーさん	NetIB-News
6月	「世界で最も美しい島」を守るため殺された仲間も… フィリピン・パラワン島で命懸けの自然保護活動が続く	東京新聞
	【玉川高島屋S・C】地域とつながる夏の特別企画 今春リニューアルしたLEDキューブ連動のアート体験や親子で学ぶ環境教育ワークショップを実施	CREA
	「世界で最も美しい島」を守るため殺された仲間も… フィリピン・パラワン島で命懸けの自然保護活動が続く	中日新聞
8月	人と自然、あり方問う アースカンパニー 濱川知宏さん	毎日新聞
10月	非営利セクター・NPO50団体	Forbes Japan
	【ゲスト・Earth Company 代表理事 濱川 明日香さん】 人と社会と自然が共に繁栄することができたら、未来に地球を残せる？	井桁弘恵の#みみしやか!! 聴くテレ朝
	タブーを打ち破る、モンゴルの女性が起こす変革	J-WAVE 『JAM THE PLANET』
	世界全体が循環型・持続可能・再生型になるためのシステムとは？ 【ゲスト・Earth Company 代表理事 濱川 明日香さん】	井桁弘恵の#みみしやか!! 聴くテレ朝
	「リジェネラティブ」な事業探求ゲームがグッドデザイン賞 UMITOPartnersも協力 日刊水産経済新聞	水産経済新聞
11月	【人】モンゴルで安全なトイレ普及に取り組む オユンゲレル・ツェデブダンバさん	熊本日日新聞社
	【時の人】オユンゲレル・ツェデブダンバさん～モンゴルでトイレ普及に取り組む 【文化・くらし／全国・海外】	山梨日日新聞社
	Mana Earthly Paradise 地球再生を目指すリジェネラティブホテルの挑戦	リジェネ旅

SEMINARS & LECTURES

【登壇の機会を頂いた場】

叡啓大学、国連開発計画 アジア・太平洋地域ビジネスと人権プロジェクト、greenz.jp、Asia Foundation、Dapur Usada、東京都「TOKYO Co Cial IMPACT」、認定NPO法人リブクオリティ・ハブ、CarpeDiem株式会社「START CAMP」、株式会社eumo「eumo academy」、ICCパートナーズ株式会社「ICCソーシャルグッドカタバルト」、モチベーションエンジニアリング研究所「KYOTO GROBAL HR CHALLENGE」、Stanford e-Minamata 水俣高校、REAPRA,Human Potential Lab、富山県立大学、ハーチ株式会社、東海旅客鉄道株式会社「伊那谷リジェゼミ」、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（順不動）

セミナー・講演登壇 18回



FINANCIAL HIGHLIGHTS

一般社団法人Earth Company 2025年度 財務報告

貸借対照表

基準日：令和7年12月31日（単位：千円）

I 資産の部	
現金及び預金	60,218
未収入金	5,117
前払費用	1,650
流動資産合計	66,985
固定資産	0
資産合計	66,985
II 負債の部	
負債合計	68,031
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	△2,900
当期正味財産増減額	1,854
正味財産合計	△1,046
負債及び正味財産合計	66,985

本財務諸表は、一般社団法人Earth Company（日本法人）の単体財務情報です。当法人は、インドネシアにおいて関連する法人および宿泊施設事業と理念を共有しておりますが、それらは独立した法人であり、本財務諸表には含まれておりません。

財政基盤の安定化を実現し、組織と事業の次なる成長に踏み出した一年

2025年度は、Earth Companyにとって、財政基盤の安定化に向けた確かな前進の一年となりました。総収入は1億2,803万円、総支出は1億2,610万円、当期正味財産増減額は192万円のプラスとなり、2年連続で黒字を確保しました。

収入面では、海外財団からの大口助成金の獲得に加え、2024年度から継続した大型の企業研修が通年で寄与し、収益を安定的に確保できたことが大きな要因となりました。寄付金収入は前年を下回ったものの、助成金と事業収益がこれを補い、収入源の多様化が進んだ一年でもありました。

支出面では、最も大きな増加要因は、チーム増員に伴う人件費の増加です。また、国内外でのネットワーキング拡大に伴い旅費交通費が増加し、支援者層の拡大に向けた広告施策の実施により、広告宣伝費も前年を上回りました。一方で、

基準日：令和7年12月31日（単位：千円）

I 経常収益	
受取寄付金	20,316
受取助成金	24,516
事業収益	82,822
その他の事業収益	378
経常収益計	128,032
II 経常費用	
人件費	21,918
事業費	86,204
管理費	17,987
経常費用計	126,108
当期経常増減額	1,924

通信費や支払手数料などの見直しを進め、オペレーションの効率化にも継続して取り組んでいます。

財政的な余裕が生まれたことで、長年の課題であった人員不足の解消に着手し、組織基盤の強化や今後の事業拡大に向けた施策を進められるようになったことは、団体にとって大きな前進でした。なお、期末の現預金残高は約6,022万円となりましたが、その一部には今後の事業実施に充当される前受的な資金も含まれています。

2026年度は、研修事業の新規顧客開拓を進めるとともに、日本の寄付市場の動向も踏まえ、海外でのファンドレイジングを本格化していきます。寄付・助成・事業収益のバランスを取りながら、中長期的に安定した財政基盤を築き、より大きなインパクトの創出につなげてまいります。

HOW TO GET INVOLVED

一人ひとりの小さなアクションが、世界を変える力になる—私たちはそう信じています。

気候変動や社会的分断が加速する今、「自分だけが動いても変わらない」と感じてしまうことはありませんか。

たとえ小さな一歩でも、SNSでの応援も、毎月の寄付も、研修の導入も、

Earth Companyとの関わりのすべてがリジェネラティブな未来へとつながっています。

一人の力が社会を変え、未来を変えます。個人として、法人として、私たちと一緒に何か始めてみませんか。

一緒にできること 個人の方へ

1 SNSで「いいね!」する

FacebookやInstagramで私たちの活動やメッセージを発信しています。「いいね!」やリポストでの応援、お待ちしております!



Earth Company - アース・カンパニー
<https://www.facebook.com/EarthCompanyJP>



earthcompany.jp
<https://www.instagram.com/earthcompany.jp/>
manaubud
<https://www.instagram.com/manaubud/>



2 「Earth Lovers基金」に支援する

「Earth Lovers基金」はみんなで力を合わせて、アジア太平洋の各地域で社会課題を解決し、小さな奇跡を起こしていく仕組みです。皆さまからの毎月の継続寄付の積み立ては、直接現地に送金され、未来のための活動となります。社会課題解決に関わる一歩を、今年は踏み出してみませんか?



3 講演を開催する

Earth Companyの講演で社会課題や環境問題、そして未来を考えるきっかけをつくりませんか?興味をもっていただけそうな学校や企業、団体のご紹介も歓迎しています!まずは気軽に下記までご相談ください。ご連絡は下記まで。
marketing@earthcompany.info



4 Regenerative Futures Campに参加する

260名以上が参加している、公開講座。年2回、4月と9月スタートで定期開催し、人と自然が共に繁栄する未来や自分自身のこれからのあり方について考える機会になると大好評!同じ思いをもつかけがえのない仲間にも出会えます!



5 Manaに泊まる

バリ島ウブドにあるエシカルホテル Mana Earthly Paradiseに泊まると、宿泊料の5%が、インパクトヒーロー支援事業に寄付されます。心と体に心地よいこれからのあり方を体験しながら社会貢献にも!



Special Thanks to

2025年の活動に関わって下さった皆様

●Regenerative Futures Camp 運営
牧野佑亮・安田楼那

●インパクトアカデミー研修開発
近藤まいか

●インパクトアカデミーレポート編集企画
荒川悦子

●インパクトアカデミー教材開発
山下実紗

●フォトグラファー
菅原幹人

●マーケティング
酒井真理亜

一緒にできること 法人の方へ

1 賛助会員

年間一口5万円からの会費で、アジア太平洋地域で社会課題や環境問題に取り組むインパクトヒーローの活動を支援できます。

2 スポンサーシップ

一口20万円から使途を指定し(アジア太平洋地域のチェンジメーカー支援、または日本の中学・高校生への無償授業提供)未来を創る活動に貢献できます。

3 企画型寄付

売上連動や従業員参加など、実施の目的やご要望にあわせて寄付企画が実施できます。

4 講演・研修の導入

社会課題解決の最前線からリアルな情報を届けることで従業員の視野を広げ、これからの時代に求められるあり方を本質的に考える機会を提供します。

5 プロボノ・留職

数ヶ月から1年間単位で、Earth Companyで留職体験ができます。組織の枠を超えて、社会課題解決の最前線を体験することで視野の広がりや成長が期待できます。

6 会場提供

会社の施設をイベント会場としてご提供いただくことで、従業員も参加しやすくなり、イベント参加者にも企業姿勢をPRできます。

OUR SUPPORTERS

SUNTORY

SIGMAXYZ
CREATE A BEAUTIFUL TOMORROW TOGETHER

UACJ 一般財団法人 UACJ 軽やか財団



TERA Energy



株式会社日ノ樹

Hinoki Co.,Ltd.

OUR PARTNERS

会場提供

IGI

YAMAHA

共催・協力団体

CROSS FIELDS

Regenerative Leadership Japan

OUR TEAM

「私」にとって「Earth Comapany」とは？ 「My tree」で描かれたスタッフの想いをご紹介します！

私たちは年2回(7月、12月)丸1日かけて活動報告やチームビルディングを行います。

2025年12月は、バリ島研修でも行う「My tree」を描くワークショップを開催。

Earth Companyで仕事をして、何が自分を支え、幹(価値観)になり、実り(得られたもの)があったか、それぞれに「自分の木」を描きました！



JAPAN



1. Earth Companyは私にとってWholeness(ぜんぶ)を受け入れる栄養と繋がりをくれる場所。自分のぜんぶを受け入れて、いろんな関係性のなかにあるという、自分なりのリジェネレーションの探求をしてきた2年間に絵にしました。
(法人連携 坂口麻衣)

2. この絵の土壌は過去、幹は現在、葉のうねりは未来を表しています。Earth Companyの多様なメンバーが持ち寄る栄養分により私の木は育ち、同じ価値観のもと進化し続け、結果私の家族や友達の刺激となっています。
(インパクトアカデミー 下元朋子)

3. Earth Companyは仕事である前に、自分という木の根っこに発見と学びの栄養をもらえる場所。企業活動と社会課題解決は対立しないと確信が持てるようになり、素敵なEarth Companyのメンバーは、娘たちのヒーローでもあります。(インパクトアカデミー・ラーニングデザイナー 村山祐紀子)

4. Earth Companyの事業とともに個人が成長できただけでなく、インパクトヒーローに憧れて社会起業家になったことで、経営者としての経験がEarth Companyに還元できるようになりました。
(マーケティング 樋口実沙)



BALI



左からThalya(マーケティング)、濱川明日香(代表理事)、岩瀬宏美(マーケティング)

5. 私の木は、大きく、しっかりと根を張り、周囲を包み込むような木です。私自身もそうありたいと思っています—大地にしっかりと立ち、与え続けられる存在に。Earth Companyは、私にとって鳥やカエルのような存在。大切なことを思い出させてくれて、成長へと導いてくれます。
(Rani)

6. それぞれ異なる高さ、見えな根を持つ木々—私が表現したのは、チームの多様な成長の姿です。一人ひとりが自分のペースで歩み、どの段階にもそれぞれの意味がある。Earth Companyはその違いを温かく受け入れ、共に育んでくれる場所です。
(インパクトアカデミー Tya)

7. Earth Companyに入ってから起きた暮らしの中のポジティブな変化を始め、代表の若かりし頃のエピソードなど、和気あいあいとシェアしました！
(マーケティング 岩瀬宏美)

8. リジェネラティブの理念をともにする人々が集まり、インパクトの種が芽吹き、世界へ波及していく。そんな私たちの社会変革の小さなエコシステムを描きました。
(インパクトヒーロー支援事業マネージャー 島田颯)

左からRani(インパクトヒーロー支援)、De(Earth Comapany Bali 事務局長)、Ryry(経理)、加藤ハンナ(Mana Earthly Paradise インターン)

